

明新アメダスで気候をキャッチ!



表示部(左)と計測部

子どもたちの学習の一助にと、旧屋代小学校の卒業生から明新小学校に寄贈設置された気象観測システム、通称『明新アメダス』の運用がはじまりました。現在の気温や湿度、風向・風速に加え、気圧や雨量も計測され、廊下に設置された表示部で、いつも最新の情報を見ることが出来ます。

※明新アメダスは、インターネットでも閲覧が可能です。ただし、データは無保証で気象庁検定済みではない教材用の機器ですので、参考程度でご利用ください。
URL <http://www.weatherlink.com/user/aba5775/>
■問い合わせ(管理者)
エンジンクラブ ☎090(1949)1452



QRコード

四境の役一五〇周年記念事業実行委員会を設立しました

平成28年6月には、大島口の戦いに端を発した四境の役から150年を迎えます。

本町では、幕府軍の圧倒的な勢力に対し少数でありながら近代的装備と西洋式戦術によって大島を守った長州藩軍や島民の戦いを顕彰し、この戦いにおける貴重な歴史的文化遺産を整備することを考

え、4月10日に四境の役一五〇周年記念事業実行委員会を設立しました。

当時の劣勢を民衆の力で跳ね返し、明治維新に繋がったということを再認識、再評価していただくため事業を推進していきますが、あわせて町の活性化に繋げる絶好の機会としたいと考えております。

構成団体につきましては、周防大島町文化振興会、山口大島農業協同組合、大島郡水産共励会、周防大島町商工会、一般社団法人周防大島観光協会、株式会社アイ・キャン、独立行政法人国立高等専門学校機構大島商船高等専門学校、周防大島町、周防大島町教育委員会です。



▲旧4町により明治百年を記念して源明山山頂に建立された史跡

四境の役一五〇周年連載コラム②

大島商船高等専門学校 准教授 田口由香

禁門の変

—なぜ四境の役が起こったのか?—

四境の役の発端は、開戦の二年前、元治元年(一八六四年)七月十九日の「禁門の変」までさかのぼります。禁門とは蛤御門とも呼ばれる京都御所の門の一つです。

禁門の変は、前年八月の「八月十八日政変」を背景にして起こりました。当時、孝明天皇は外国を国内から排除する攘夷を主張しており、長州藩は攘夷を国の方針にする活動をしていました。長州藩

は、ペリー来航以降の高まる対外的危機に対抗するためには、一旦攘夷を行い、将来的に開国する必要があると考えていたのです。朝廷の催促を受けて幕府が攘夷を決定すると、長州藩は関門海峡を通航する外国船を砲撃して攘夷を決定しました。長州藩が孝明天皇の信頼を得て政治勢力を強めたこと

で、それに危機感をもった会津藩などが、長州藩を京都から追放するために「八月十八日政変」を実行したのです。元治元年六月、京都で新選組が長州藩士らを襲撃し

た池田屋事件が起こると、長州藩は終に軍の上京を決断しました。

禁門の変では、御所を囲む薩摩藩兵や会津藩兵などと戦闘になり、長州軍は各所で敗れて、久坂玄瑞が自刃、来島又兵衛などが戦死しました。朝廷と幕府は、御所の方面に向かつて発砲した長州藩を朝廷の敵(朝敵)として、諸藩に討を命じたのです。

◎次回は「第一次長州出兵」についてです。



▲京都御所の禁門(蛤御門)